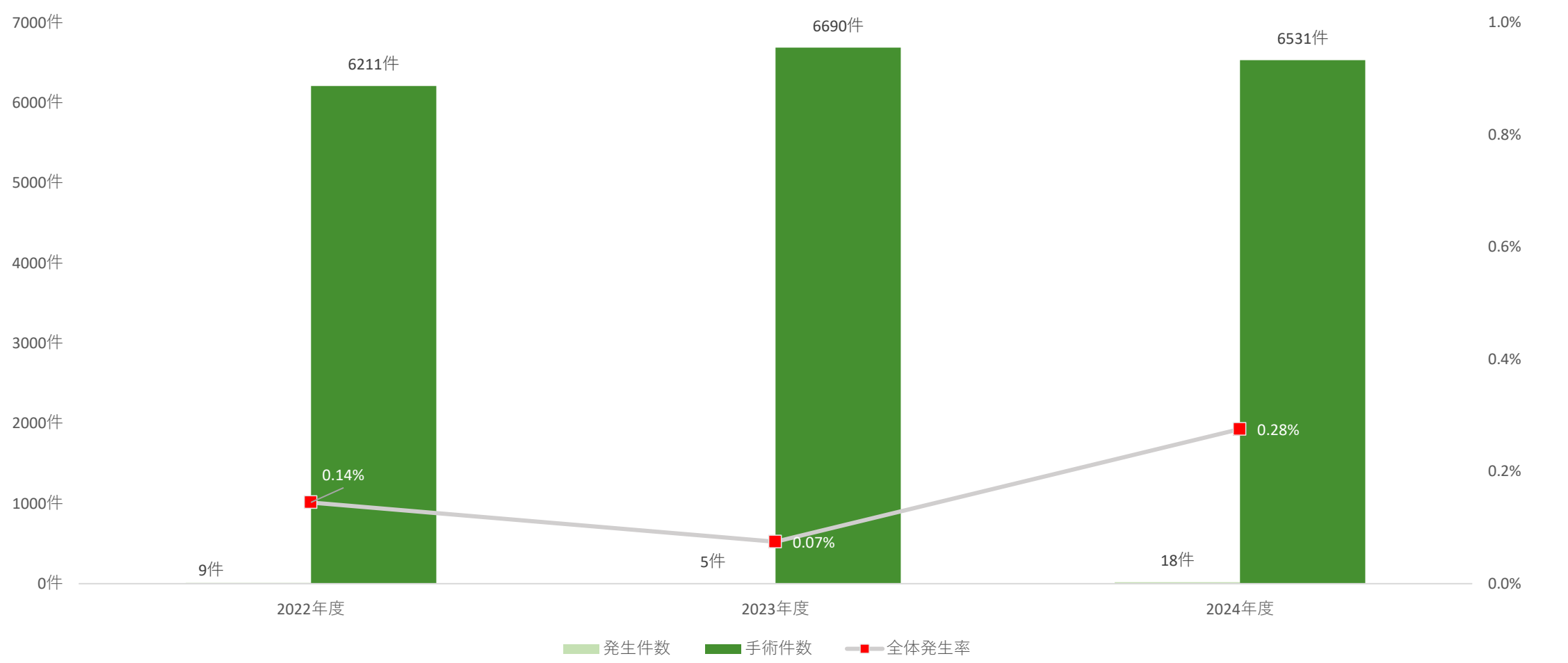
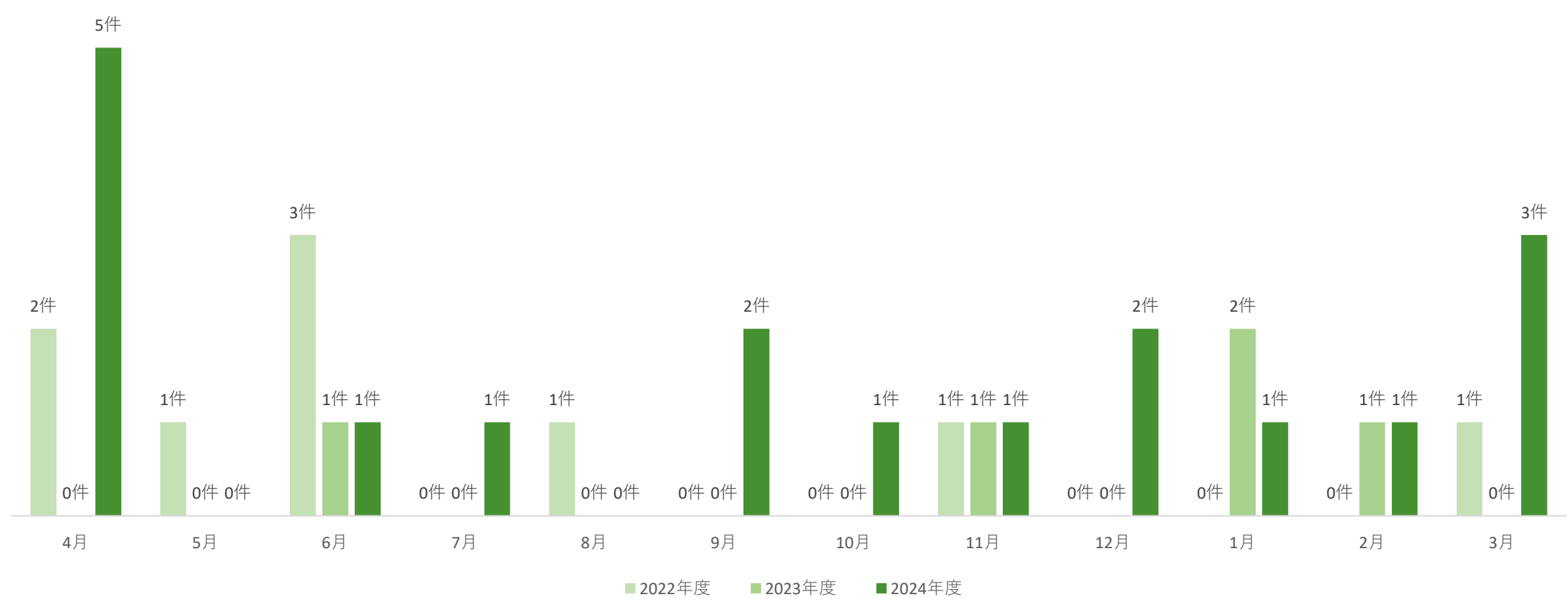


2022年度－2024年度 手術中褥瘡発生率年度推移



2022年度－2024年度 手術中褥瘡発生件数(月別)



【指標の説明】

昨今の手術は多様化しており、その手術操作を容易にするため術式に合わせて様々な体位を取る必要があります。そして、その体位が手術中に崩れないよう患者さんの体を固定する必要があります。ただし、患者さんは麻酔中で意識がなく体が圧迫されていても訴えることが出来ません。手術が終わり、麻酔から覚めると手術の傷と違うところの皮膚が赤くなったり、ただれていた(＝褥瘡)という事例も報告されています。褥瘡ができるとその部位のケアも必要となり、患者さんの更なる負担となりかねません。

当院では2023年度から2024年度にかけ、手術件数は微減しているものの手術中の褥瘡発生件数は増加しました。この状況について早急に手術センターへ報告・周知し、今年度は減少傾向に向かうよう、手術センタースタッフへ「術前・術中・術後の観察を怠らず褥瘡を発生させないこと」を改めて徹底指導しました。今年度は褥瘡対策チームを手術センタースタッフで結成しており、褥瘡発生率を上げない手術を目指します。患者さんへの手術中の褥瘡発生を出来る限り抑え手術以外の負担を軽減し、安心して手術に臨んでいただける環境を改めて整えます。

【計算方法】

分子: 院内新規褥瘡発生件数(医療機器含む)のうち、手術中の褥瘡発生件数  
分母: 年度手術件数  
分子／分母 × 100